



No. **30**
20.May.2014

日本ホスピス緩和ケア協会

NEWS LETTER ニューズレター

Hospice Palliative Care Japan

日本ホスピス緩和ケア協会事務局

〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1 ピースハウス病院内

TEL 0465-80-1381 FAX 0465-80-1382

Website>><http://www.hpcj.org/> E-mail>>info@hpcj.org

メッセージ：2014年度年次大会を前にして

専門的な緩和ケアの普及と質の向上をめざして



特定非営利活動法人
日本ホスピス緩和ケア協会
理事長 志真 泰夫



2014年7月19日・20日の両日に渡り、東京ビックサイトTFTホールを会場に日本ホスピス緩和ケア協会2014年度年次大会が開催されます。1日目は総会とシンポジウム、2日目は分科会の予定です。

第1日目のシンポジウム「ホスピス・緩和ケア病棟：これまでとこれから」について、その企画の3つの狙いを述べます。

1. わが国のホスピス・緩和ケア病棟におけるこの10年間の変化を量的な指標を示して明らかにする。
2. わが国のホスピス・緩和ケア病棟におけるこの10年間のケアの質の評価を遺族評価の指標を示して明らかにする。
3. これからの10年、ホスピス・緩和ケア病棟の進む方向について、量的な拡大と質的な向上のバランスをどのように保つか、明らかにします。

このシンポジウムは、第2日目の分科会1～5へ繋がります。分科会1では在宅ホスピス緩和ケア、ホスピス・緩和ケア病棟、病院緩和ケアチームを基盤にして地域緩和ケアネットワークをどう作ってゆか、中長期的展望のもとで話し合います。分科会2および5では「チームアプローチ」と「ホスピス・緩和ケア病棟の運営の実際」をテーマに質の向上をどう図るか、について話し合います。分科会3および4は専門的な緩和ケアを担う人材の育成を医師と看護師に焦点を当てて話し合います。

わたしは、当協会が『専門的な緩和ケアを提供する施設と個人からなる団体』として、『専門的な緩和ケアの普及と質の向上』に努めることが使命であると繰り返し述べてきました。今回の年次大会は、「専門的な緩和ケア」の内容を具体的に明らかにして、それをどう普及させるか、を論議したいと思います。

そして、当面取り組む課題として第1に「ホスピス・緩和ケア病棟の質向上の取り組みに関する認証制度」の実施、第2は「専門的緩和ケア看護師教育プログラム」(SPACE-N: Specialized Palliative Care Education for Nurse)の推進が挙げられます。

「認証制度」は、本年7月に開催される理事会に「ホスピス・緩和ケア病棟における質向上の取り組みに関する認証制度報告書」が提出されて討議されます。おそらく年次大会終了後に会員のみなさんに公表できると思います。

SPACE-Nのテキストは完成し、それを基本にして「ケアは対話や相互理解で成り立っていることに気づいてもらう」ためのワークショップを今年度から年1回のペースで開催します。

そして、年次大会での討議を基本にしてこれから5年先、10年先を見通したホスピス緩和ケアに関する「政策提言作り」に取り組みたいと思います。具体的には、団塊世代が75歳に達する2025年時点では死亡者総数が160万～170万人に達するという推計データをふまえて、これまでわたしたちがホスピス・緩和ケア病棟、病院緩和ケアチームで培ってきた臨床の「経験と知恵」を活かして、がん患者に限らず、生命を脅かす病気を持つ多くの人々が質の高い終末期ケア(End of Life Care)を受けることができる社会環境を整えるために私たちに何ができるか、提言することを目指したいと思います。

2014年度 年次大会のご案内

5月30日(金)
締切

日時 7月19日(土)・20日(日)

【対象】 協会正会員・準会員・賛助会員

【参加費】 年次大会：5,000円

懇親会：5,000円

特別企画 看護管理者セミナー：1,000円

MSWセミナー：1,000円

【会場】 ビッグサイトTFTホール・会議室

【申込み方法】

以下のいずれかの方法でお申し込み下さい。

①Eメール：協会ウェブサイトから申込書をダウンロードして必要事項に入力の上、info@hpcj.orgまでメール添付でお申し込み下さい。

②FAX：申込書に必要事項をご記入の上、協会事務局(0465-81-5521)へお申し込み下さい。

7月19日(土)

【総会】 13:30-15:05

【第1部】13:30-14:45 2013年度活動報告・決算、2014年度活動計画・予算、役員改選について等

【第2部】14:45-15:05 「緩和ケア病棟自施設評価」について

【シンポジウム】 15:20-17:00「ホスピス・緩和ケア病棟：これまでとこれから」

1) 「ホスピス・緩和ケア病棟の10年を振り返る：現状と課題」

佐藤 一樹(東北大学大学院 医学研究科 保健学専攻 緩和ケア看護学分野 助教)

2) 「ホスピス・緩和ケア病棟の質を評価する：遺族による評価(J-HOPE)から見えてくるもの」

宮下 光令(東北大学大学院 医学研究科 保健学専攻 緩和ケア看護学分野 教授)

3) 「ホスピス・緩和ケア病棟の質を保証する：これからの10年に向けて」

志真 泰夫(特定非営利活動法人 日本ホスピス緩和ケア協会 理事長)

【懇親会】 17:30-19:30

7月20日(日)

【分科会】 9:00-12:00

テーマ

担当

1) 平成30年度 医療保険・介護保険同時改定に向けて
～中長期的展望のもと、あるべき緩和ケアを論議する～

医療保険・介護保険検討委員会

2) 多職種が機能する緩和ケアとは
～あらためて医療チームのあり方を考える～

石原 辰彦・福地 智巴
(理事・教育支援委員会 委員)

3) 緩和ケア医の専門教育とは何かを問う

医師教育支援部会

4) 看護師のための専門的緩和ケア教育
～ELNEC-JからSPACE-Nへ～

看護師教育支援部会

5) 緩和ケア病棟のケアの質向上
～緩和ケア病棟運用期間の短い施設を主な対象として～

緩和ケア機能評価部会
質の向上のためのプログラム開発部会

【特別企画】 13:30-18:00

看護管理者セミナー

ファシリテーションでカンファレンスを
活性化する
～想いを引き出し、つなげ合う工夫と心構え～

MSWセミナー

教育・共育 Part3 (教える・育てる・共に育む)
：専門的緩和ケアのためのMSW共育
～援助者としての自己を識る～

教育研修事業報告－支部における取り組み－

日本ホスピス緩和ケア協会では、緩和ケアに従事する医療者を対象とした、教育研修事業に取り組んでおり、全国8支部において地域の特性を生かした、様々な教育プログラムを企画・運営しています。2012年度からは、各支部において「終末期の医療に携わる看護師に必須とされる知識修得のための教育プログラム（ELNEC-J）」の開催を推進し、今後「専門的緩和ケア看護師教育プログラム（SPACE-N）」の受講に繋げていく予定です。

今回は東北支部が4年前から独自に取り組んでいる研修事業を、東北支部代表理事の嘉藤 茂先生よりご紹介いただきます。また、ELNEC-Jの開催状況および、受講した看護師よりアンケートでお寄せいただいた声を掲載いたします。

東北支部主催 「緩和ケア研修交流事業」のご紹介

東北支部代表理事 嘉藤 茂

東北支部では、2010年度より緩和ケア研修交流事業を始めました。

毎年5月になると、研修生受け入れ施設の募集が始まります。受け入れ可能な職種、人数、研修プログラムなどについて回答してもらい、それらをまとめて研修受け入れ施設一覧表を作ります。次に、その一覧表を添えて会員施設に研修生の募集案内を送付します。支部事務局では受け入れ施設と交渉しながら、応募者ができるだけ希望する施設で研修できるように調整します。実際の研修交流は、9月から11月の間に各受け入れ施設、すなわち、緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、在宅で活動を見学し、見学後に、1時間ほどの交流の場を設けています。研修期間は1日が大部分ですが、複数日も可能です。

研修生には事前に研修目的を提出してもらっていますが、「他の緩和ケア病棟の現状を知ることで自分のケアを振り返り、ケアの妥当性を確認し、改善点に気づくため」とする記載が多くみられます。研修終了後にはレポート提出をお願いし、レポート集にまとめて、毎年、会員に配布しています。さらには、東北支部会総会で数名の研修生に体験発表を依頼し、体験の共有を心がけています。レポート集を読むと、真摯に緩和ケアに取り組もうとする研修生の熱意が伝わってきます。他施設の取り組みを知り、客観的な視点が芽生えることで、自施設のケアの妥当性を確認し、他施設よりも優れた点に気づくなど、研修の意義は大きいようです。

4年間の実績は、研修生の総数が61名で、内訳は医師4名、看護師51名、薬剤師1名、MSW4名、理学療法士1名です。最近では毎年20名程度の参加があります。研修施設は緩和ケア病棟50名、緩和ケアチーム4名、在宅（診療所）7名で、研修生の所属施設は緩和ケア病棟45名、緩和ケアチーム等11名、在宅（診療所）5名でした。

私は、ホスピス緩和ケアにおいては、関係性と医療観がキーワードと考えています。関係性や医療観は、現場での実際の関わりに触れてこそしっかりと伝達されるのではないのでしょうか。

そのような観点から、緩和ケア研修交流事業には捨てがたい意義があるのではないかと考え、今後も継続していきたいと考えております。



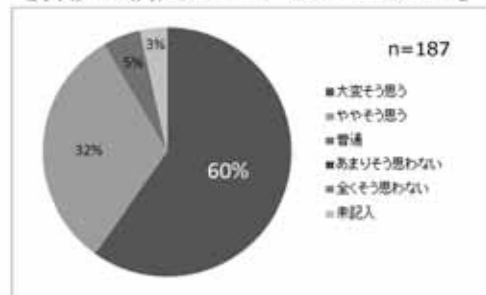
緩和ケア研修交流事業参加報告の様子

支部でのELNEC-J開催状況

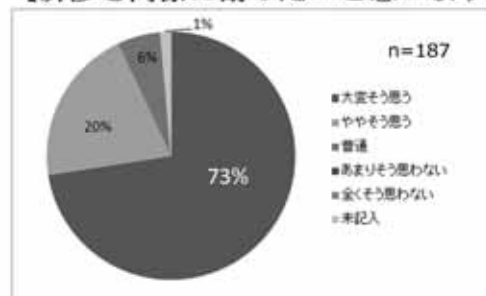
【各支部での開催状況】

支部名	開催日程	会場	修了者人数
北海道支部	2013年1月26日・27日	KKR札幌医療センター	44
北海道支部	2013年11月9日・10日	KKR札幌医療センター	29
近畿支部	2014年3月1日・2日	姫路聖マリア病院	65
関東甲信越支部	2014年3月8日・9日	館林厚生病院	49
中国支部	2014年5月31日・6月1日	県立広島病院	-
合計（2014年5月1日現在）			187

【研修は満足のいくものでしたか】



【研修を同僚に勧めたいと思いますか】



【ご意見・感想など】（抜粋）

- ・自分の看護を振り返り、自分の弱みや強みを再認識することができ、他者の介入方法や思いなどを知ることができました。しんどかったですが、充実感ももてました。
- ・臨床で実践できる内容の研修でした。普段何気なく行っているケアの中で疑問に思っていたことなどが解決され、今回の研修に参加できて良かったです。
- ・基礎的なことからトータル的にエンドオブライフケアを学ぶことができました。日頃のモヤモヤしたことがディスカッションやロールプレイを行うことで解決できたと思います。
- ・ロールプレイで患者役をやってみて、患者の気持ちを

身をもって実感することができました。患者や家族の気持ちに少しでも寄り添えるようにしていきたいと思いました。

- ・モジュール7が印象的でした。深く患者・家族と関わりを持つことで、亡くなったときの悲嘆を看護師も感じていたが、日々の業務に追われてなかなか振り返ることができず、不消化感が残っていたので、講義の中で看護師も悲嘆を抱くのは当然であること、その対処について学べたことがよかったです。



近畿支部開催のELNEC-Jの様子

事務局通信

入会・施設基準届出受理施設について

2014年1月発行のニューズレターでご報告して以降、新たに入会した施設は、次の通りです。

【正会員：緩和ケア病棟入院届出受理施設】

- ・高砂市民病院（兵庫県高砂市）
- ・戸畑リハビリテーション病院（福岡県北九州市）
- ・飯塚病院（福岡県飯塚市）

【正会員：一般病院】

- ・岐北厚生病院（岐阜県山県市）

【正会員：診療所】

- ・照井在宅緩和クリニック（宮城県仙台市）
- ・ホスピティウム聖十字会 中島医院（東京都清瀬市）
- ・深澤りつクリニック（神奈川県横浜市）

【準会員】

- ・京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻（京都府京都市）

● 求人広告をご利用下さい ●

当協会では、ホスピス緩和ケアに携わるスタッフの充実をはかり、ケアの質の向上を目指すことを目的として、正会員施設の求人広告をホームページに掲載しています。

利用対象：日本ホスピス緩和ケア協会の正会員

掲載費用：無料

掲載期間：4ヶ月

但し期限以降も継続希望の連絡があれば、引き続き掲載いたします。

▼掲載を希望される場合▼

会員専用ページから登録票をダウンロードし、必要事項を記載の上、事務局まで郵送して下さい。ダウンロードができない場合は、事務局までお問い合わせいただければ、登録票をお送りいたします。



ご寄付について

私どもの活動は、協会の事業に賛同し、応援して下さる個人の方、団体からのご寄付を受け付けており、2014年1月以降、205,000円のご寄付をいただきました。この場を借りて、厚くお礼申し上げます。

【ご寄付下さった方々】 西山 豊一様（神奈川県） 安倍 紀明様（神奈川県）

なお、ご寄付の詳細につきましては、以下を明記の上、郵便またはEメール（info@hpcj.org）・FAX（0465-80-1382）にて事務局までお問い合わせ下さい。関係資料をお送りいたします。

- ①お名前（法人は法人名と連絡担当者名）
- ②ご住所
- ③電話番号
- ④メールアドレス（お持ちでしたら）

直接お振込みいただく場合、振込先は下記の通りです。

【振込先】三菱東京UFJ銀行 新富町支店

口座：普通預金 3677396

名義：特定非営利活動法人 日本ホスピス緩和ケア協会 理事長 志真 泰夫

